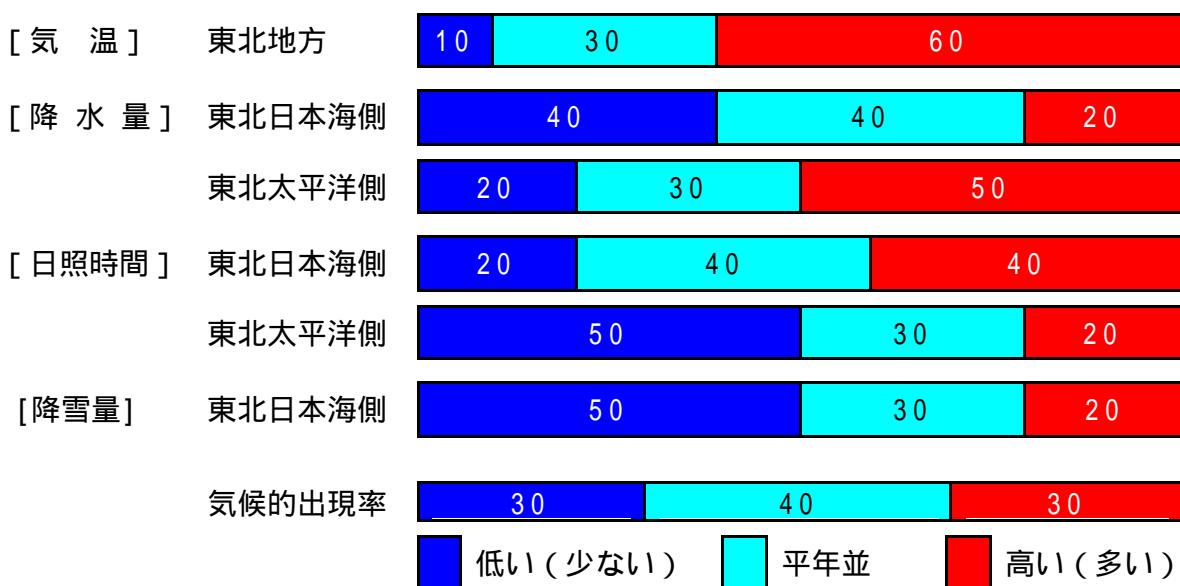


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:1月15日~2月14日)

平成12年1月14日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は60%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の確率は10%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「少ない」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

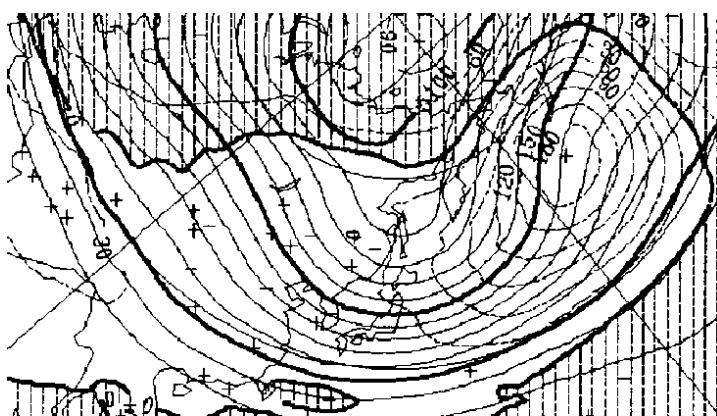
東北地方は、冬型の気圧配置が長続きせず、天気は周期的に変化する見込みです。東北日本海側は平年に比べ雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。また、東北日本海側の降雪量は少ない見込みです。平年の晴れ日数は東北日本海側で約9日、東北太平洋側で約22日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 向こう一週間は、気圧の谷が 17 日頃通り、この頃全般に天気がくずれるでしょう。その他の日は冬型の気圧配置となる見込みです。東北日本海側では曇りで雪や雨の降る日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れる日が多い見込みです。
 平均気温は高い見込みです。
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 2週目…………… 冬型の気圧配置となります。低気圧の通過で東北太平洋側でも天気の崩れる日があるでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。
 平均気温は平年並の見込みです。
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 3~4週目…………… 冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変化するでしょう。
 (1月 29 日~2月 11 日) 平年に比べ、東北日本海側は雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ないでしょう。
 平均気温は高い見込みです。
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 10 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

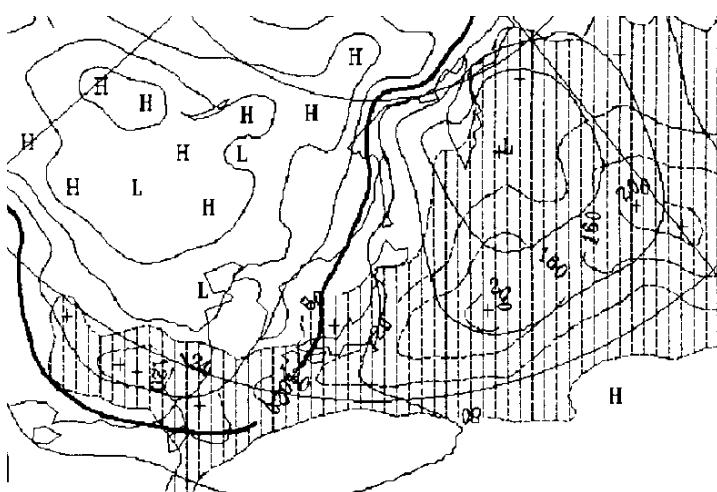


月平均の 500hPa 高度・偏差
 (等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本の東海上を中心とした正偏差。日本付近は気温の高いパターン。上空の流れはゾーナル^{注1}で冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響を受けやすい。週別(図略)では、2週目に日本付近は負偏差となり、若干寒気の影響を受けやすいが、3~4週目には再び正偏差となってゾーナル傾向を示す。

注 1) ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。



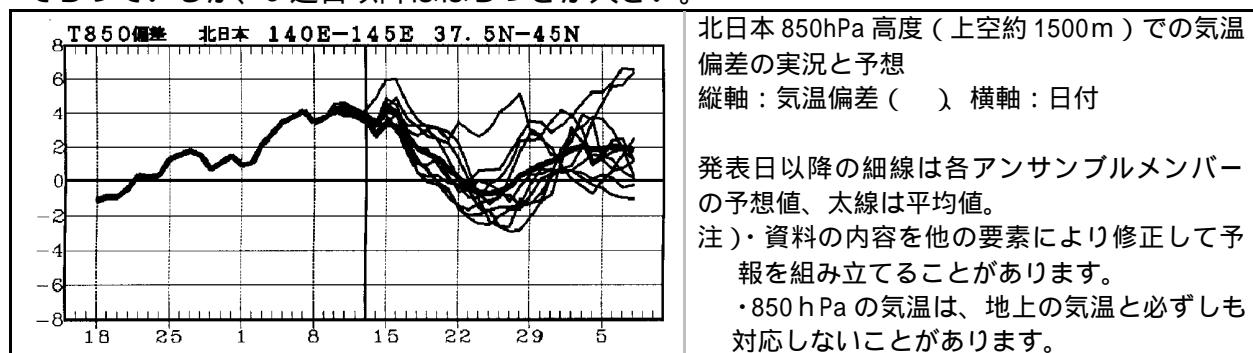
月平均の地上気圧と降水量
 (等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、西高東低の気圧配置を示すが、等圧線の間隔は日本付近で広く、冬型は弱い見込み。降水量は日本列島を東西に帯状に覆い、太平洋側でも明瞭である。週別(図略)では、2週目にやや冬型が強まる傾向を示すが、3~4週目には再び冬型は弱まる見込み。

3. 北日本 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目高温から2週目に下降、3~4週目に再び上昇する予想。ほとんどのメンバーが2週目までは大きな傾向はそろっているが、3週目以降はばらつきが大きい。

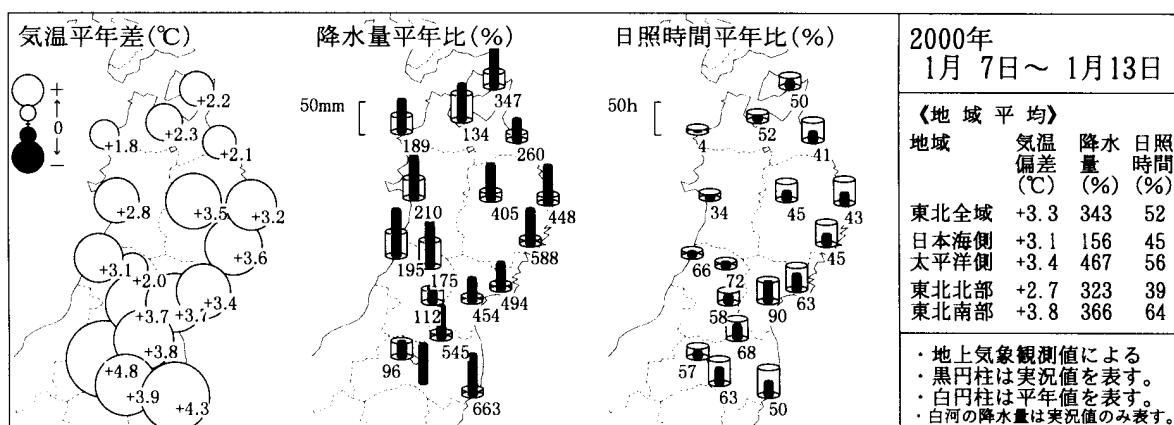


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（1月7日～1月13日）の天候の経過

この期間、1月7日、10日、13日と約3日周期で気圧の谷が通過した。気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となったが、長続きしなかった。このため、東北日本海側では雨または雪の日が多く、東北太平洋側では天気は周期的に変化し、平年に比べて曇りや雨の日が多くなった。

平均気温は、東北地方で平年差+3.3 $^{\circ}\text{C}$ 。降水量は、東北日本海側で平年比 156%、東北太平洋側では平年比 467%。日照時間は、東北北部で平年比 39%、東北南部で平年比 64%。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）